

トカラ列島小島におけるオオミズナギドリの営巣時の洞窟利用の記録

仲宗根和哉¹・三宅遥香²

¹ 〒905-1411 沖縄県国頭郡国頭村字辺士名

² 〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1 琉球大学理学部海洋自然科学科

Abstract

Cave nesting by *Calonectris leucomelas* (Temminck, 1836) was observed on Kojima Island of the Tokara Group, Ryukyu Archipelago, Japan. An adult bird and an egg were observed inside the cave. This document reports observation of cave use by this species for nesting.

はじめに

オオミズナギドリ *Calonectris leucomelas* (Temminck, 1836) は、ミズナギドリ目ミズナギドリ科オオミズナギドリ属の海鳥であり、極東ロシアから台湾周辺の日本を中心とした東アジア地域で繁殖するとされる(岡, 2004)。小島はトカラ列島南部の小宝島の東北約2 kmに位置し、高地の東南斜面にオオミズナギドリが深さ3-4尺の穴を掘り営巣するとされる(永井, 1938)。

今回、小島において洞窟中で抱卵する1個体のオオミズナギドリを確認した。本種は基本的に地中に巣穴を掘り営巣することが知られ(治田, 1987; 山本ほか, 2015)、洞窟利用は稀であると考えられるため、ここに一例として記録する。

観 察

2025年7月2日に鹿児島県十島村小島の南側山脚部に位置する洞窟内にて、オオミズナギドリを発見した(Fig. 1A)。洞窟は宝島層群の火砕岩で形成されており、周辺はピロウ群落となっていた。洞口は下方へ窪んでおり洞内へは1 mほどの落差で傾斜していた(Fig. 1B)。洞内は高さ1.5-2 m程度、奥行きは4-5 mの空間を有し、洞内に

は数個体のヤギの骨が散乱していた。オオミズナギドリは洞内奥の地面に座り込んでいた。営巣の可能性のあるオオミズナギドリへの影響を懸念し、写真による記録後、直ちに洞へ出た。著者の出洞時にはオオミズナギドリは姿勢を変え、1卵を抱卵していることが確認された。なお、洞窟周辺や隣接するピロウ群落内などでオオミズナギドリは確認されなかった。

考 察

観察個体は、嘴は淡青色で若干の桃色を帯び、頭部は白色で頭頂部にかけて黒縦点が点在し、背面は暗灰色で羽縁は白色であった。これらの特徴はオオミズナギドリの形態に一致する(河野・水谷, 2017)。また本種は6月下旬から7月上旬にかけて1卵を産むとされ(Yamamoto et al., 2012; 河野・水谷, 2017)、今回の観察例も当てはまる。

八重山諸島の仲ノ神島では地中のほかに、ガジュマル群落下床の地上、岩石の隙間での営巣が確認されるものの、ほとんどの個体は地中に営巣するとされる(山本ほか, 2015)。また営巣ではないと思われるものの尖閣諸島の南小島では岩間の穴中に生息しているともされる(高良, 1954)。今回の洞窟利用は、営巣に既存の空間を利用するという点で山本ほか(2015)の岩石の隙間での営巣に類似するが、通常の巣穴に比較して非常に広い空間での営巣であり、特異な営巣例であると考えられる。

営巣が観察された洞窟の周辺に繁殖個体は見られず、また永井(1938)の記録した繁殖地とは

Nakasone, K. & H. Miyake. 2026. A record of cave nesting by *Calonectris leucomelas* on Kojima Island, the Tokara Group, Ryukyu Archipelago. *Nature of Kagoshima* 52: 183-184.

☑ KN: Hentona, Kunigami, Okinawa 905-1411, Japan (e-mail: kzy121908@gmail.com).

Received: 16 January 2026; published online: 23 January 2026; https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_052/052-046.pdf

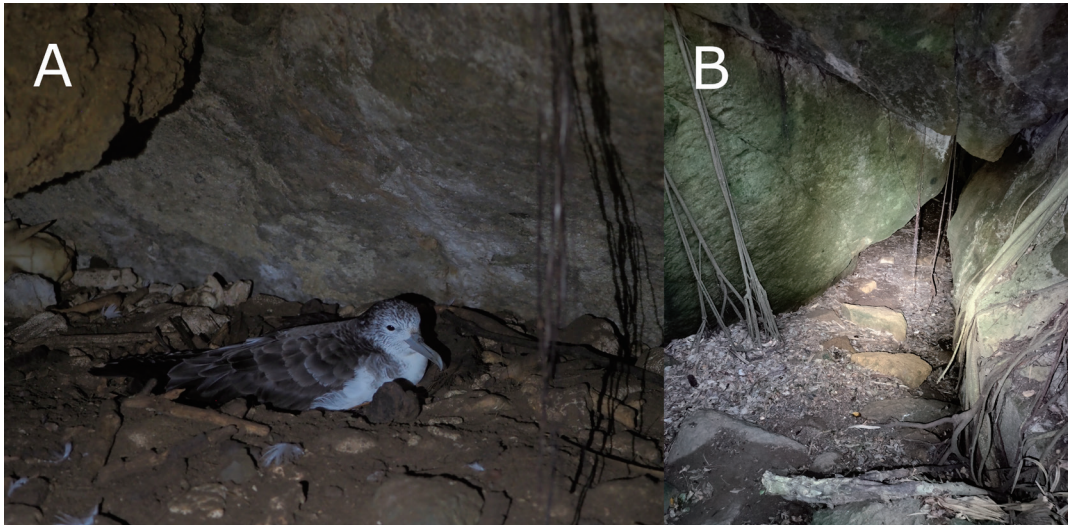


Fig. 1. Cave nesting by *Calonectris leucomelas* on Kojima Island, the Tokara Group, Ryukyu Archipelago. A, an adult bird inside the cave; B, cave entrance.

場所が異なっていた。このことから今回の観察例は、小島におけるオオミズナギドリの主要な繁殖場所ではない地点での営巣と考えられる。

謝 辞

本調査にあたり、十島村には昆虫等採集の許可を頂き、小宝島の岩下氏には小島への渡航に便宜を計って頂いた。この場を借りてお礼を申し上げます。

引用文献

河野裕美・水谷 晃. 2017. オオミズナギドリ. Pp. 138–139. 沖縄県環境部自然保護課（編）改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（動物編）レッドデータおきなわ. 沖縄県環境部自然保護課, 那覇.

永井龜彦. 1938. 大水阻鳥の繁殖地, Pp. 53–54. 鹿児島県（編）. 史蹟名勝天然記念物調査報告, 第4輯. 鹿児島.

岡奈理子. 2004. オオミズナギドリの繁殖島と繁殖個体数規模, および海域, 表層水温との関係. 山階鳥学誌 (35): 164–188.

高良鉄夫. 1954. 尖閣列島の動物相について. 琉球大学農学部学術報告 (1): 57–74.

Yamamoto, T., Takahashi, A., Oka, N., Shirai, M., Yamamoto, M., Katsumata, N., Sato, K., Watanabe, S. & Trathan, P. N. 2012. Inter-colony differences in the incubation pattern of streaked shearwaters in relation to the local marine environment. Waterbirds 35: 248–259.

山本誉士・河野裕美・水谷 晃・依田 憲. 2015. 仲ノ神島におけるオオミズナギドリの巣穴構造と繁殖個体数推定. 山階鳥学誌 (46): 67–81.

治田則男・丸山直樹・岡奈理子・黒田長久. 1987. 御蔵島のオオミズナギドリのコロニー構造. 山階鳥学誌 (19): 56–76.